

「サンバラ宮」が鎮座

災難除け 祭神は座王大権現

御嶽教・大和本宮



境内の北端に新たに祀られたサンバラ宮

御嶽教は10月26日、「弾除け」「災難除け」の聖なる文字・呪言として知られる「サンバラ(サ

ムハラ)」の名を冠した神社「サンバラ宮」を奈良市の御嶽山大和本宮に祀った。神仏習合時代の

御嶽大神の神名「御嶽山座王大権現」を祭神とした。サンバラは遅くとも江戸時代には伝えられていた呪言で、戒律を意味する梵語の「三跋羅」に由

来するともいう。特に明治以降、出征する兵士の弾除けのお守りが全国各地で出された。

井上慶山管長は近年、教学と研修に力を入れている。御嶽信仰はそれぞれの教会や講社の固有の

伝統を重視するが、教団では教師は祈祷・禁厭・神占を行うと規定しており、その内容をしっかりと教える必要があるため過去の典籍を研究中だ。

その中で禁厭の一つとして挙げられている呪言に着目。大地主社に合祀してサンバラ宮の鎮座となった。

1965年造営の大和本宮では御嶽大神を神式で祀っており、国常立尊

・大己貴命・少彦名命の神像を奉安するが、座王権現(蔵王権現)の名で祀る場所がなかった。そこで今回、江戸時代以来の神名である御嶽山座王大権現を祭神とした。

合わせて祀る武尊山大権現・意波羅山大権現は開祖の一人、普寛行者が修行した群馬県・埼玉県の霊山の神という。

岐阜県の教会所属の女性性は「3代前の教会長の時代から節分でサムハラのお守りを授けている。言葉が宿っており、十難を転じる強い力がある。他の教会は分からないがサムハラのお宮ができたことに縁を感じている」と語った。(武田智彦)